

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和4年度 学校評価重点計画

小松市立荒屋小学校
学校長 若山 直代

目指す児童生徒の姿

「じ・も・と」で育つ あらやの子

- じ・・・自分で考え 行動する
- も・・・もっと 伸びようとする
- と・・・ともに学ぶ 思いやる

（１）学校の課題

児童 素直で真面目であるが、様々な要因で個別の支援を必要とする児童も多い。自己有用感を高め、温かい人間関係の中で主体性・協働性を発揮しながら、安心して学ぶことのできる学習環境づくりをめざす。

教師 熱心で親和性が高く、チームとして一体感がある。温かな学級づくり、主体的・対話的で深い学び、GIGAスクール構想の実現に向けて授業改善を行う。

（２）具体的な方策と検証

- ・ 学校研究の算数科を軸に、すべての学習で「自ら考え、学びを深める子の育成」をめざし授業実践の積み上げとICT活用、学力向上策に取り組む。〔児童・教職員アンケート〕
- ・ 自己有用感を高め、温かな人間関係を築く計画的な活動や働きかけを行うと同時に、スタッフの特性・役割を生かし、個に応じた支援を行う。〔児童アンケート〕
- ・ 家庭と連携し、継続的に児童の生活習慣の改善をめざす。〔児童・保護者アンケート〕
- ・ 学校便りやメール、HPなどを活用し、情報発信で教育活動のねらいの共有を図りながら信頼される学校づくりをめざす。〔保護者アンケート〕